

第87回:重慶に甦る毛沢東

前回のコラムで、大学生たちに中国事情を紹介したいきさつを書いたが、講義が終わった土曜日の夕方、友人の教授が講師料代わりに一席設けてくれ、学生も10人くらい参加して賑やかな宴会となった。授業中はあまり質問が出なかったが、教授の奢りでビールを飲むうち雰囲気もほぐれてきたようで、いろいろ課外質問を受けた。第二外国語で中国語を学び、人民日報や新華社のウェブサイトが読める学生も多いようで、さる学生からこんな鋭い質問が飛び出した。

「最近、重慶市で『打黒唱紅運動』が盛り上がっており、「打黒＝暴力団追放運動」は重慶書記・薄熙来(はく・きらい)による来年の共産党大会に向けた実績作りだろうと想像はつくのですが、毛沢東時代に回帰するかの印象を与える「唱紅(共産党礼賛)運動」の持つ意味が良く分かりません」

最近日本のニュースでも、重慶市内で朝から人々が公園や大学に集まり、毛沢東を称え、共産党を賛美する歌を合唱する場面がよく報道されている。毛沢東の孫の毛新宇(41)は人民解放軍で最も若い少将に抜擢され、最近マスコミに登場する機会も増えている。このコラムの主旨とは関係ないが、毛少将の風貌を見ると何故か山上たつひこの「こまわり君」を思い出す。理由を知りたければグーグルで「毛新宇」と検索し、検索画面左上の「画像」をクリックされたい。

「薄熙来は右派か左派かという議論もあるが、正解は重慶の広告代理店である。大学でジャーナリズムを勉強しただけあってプロパガンダの要諦を心得ているようだ。『打黒運動』とは前任の汪洋(現広東省書記)が手を拱き放置してきた重慶市の間に斬り込み、役人と結託する巨悪を退治したという自己PRだろう。もう一つの『唱紅運動』も似たようなものさ」と概略以下のような話を続けた。

今年設立90年を迎えた中国共産党の歴史とは権力闘争の歴史であり、党の性格が悪いのか、中国人の人柄に問題があるのかはともかく、権力闘争に敗れた共産党員は悲惨である。敗れ去ったあと命は助かったとしても、勝者から「左翼冒険主義」もしくは「右翼日和見主義」というレッテルを張られ、あとあとまで執拗に、厳しく、ネチネチと批判される。それでは右翼・左翼の定義はあるのかと問われたら、これが無い、没有(メイヨー)なのである。

1971年9月13日、林彪副主席による毛沢東暗殺計画は、実行寸前に林彪の長女が周恩来首相へ密告したため未遂に終わった。慌てふためいた林彪は葉群(夫人)、林立果(長男)と共にトライデント機に飛び乗り、イルクーツク方面に逐電を図ったが、パイロットは確保したものの、ナビゲーター搭乗が間に合わず、航路を見失った林彪一味は外蒙古の草原に墜死した。このクーデター事件で、林彪派の黄・呉・邱・李の「四大金剛(＝四天王)」を始め数多くの将軍が失脚した。

翌1972年、林彪事件の総括が行われ、周恩来は関係部門に根回しを行った上で、林彪を極左と位置付けるよう提案し、党内で「極左思潮」との闘争を呼びかけた。これに対し、後に「四人組」と呼ばれるようになる江青夫人を始めとする文革派が文化大革命の否定につながりかねない「林彪極左論」に噛みつき、彼は極左ではなく極右だったと反論した。大の大人たちが、林彪は右か左か、口角泡を飛ばして議論するなか、

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

1/3

最後に毛沢東が発言し、論争に決着をつける。「林彪路線の実質は極右、修正主義、党と国家への反乱である」この天の声により、総括委員会の努力は水泡に帰し、梯子を外された周恩来は大恥をかくことになった。中国共産党の右翼・左翼論とは所詮こんなレベルなのである。

来年の秋に第18回共産党大会が開かれ、10年続いた胡錦濤体制のトップ9名の大半が引退し、習近平を首班とする新しい体制が誕生する。そのような状況において、深く静かに潜航する李源朝のような政治局常務委員候補者もいれば、重慶のチンドン屋のように鉦太鼓を打ち鳴らす野心家も登場するのである。

彼らがいま繰り広げている権力闘争の基盤となっている所属派閥を大きく括れば、ブルッキングス研究所のチェン・リー上席研究員が主張する赤組・青組説が適切だろう。

- 赤組(人民擁護派):** 共産主義青年団(以下共青团)出身者が主流。
高度成長の必要性を認めながらも、弱者救済や環境保護にも力点を置く勢力。
- 青組(高度成長派):** 太子党や高度成長受益者(金持ち)が中心勢力。
自由貿易や規制緩和を進め、更なる高度成長を目指す一派。

この二大勢力がいま中国で競り合っており、彼らの主張だけを聞けば、貧困層は赤組を支持し、富裕層は青組を支持するだろう。問題は中国において富者よりも貧者の人口が圧倒的に多いことである。このままでは青組は勝てない。なんとかして貧困層に食い込む必要がある。

そこで青組、なかんずく太子党出身の薄熙来(薄一波・元副首相の次男)や、習近平(習仲勳・元副首相の長男)、劉源(上将。父は劉少奇・元国家主席)たちは自らの出自を前面に押し出し「かつて毛沢東と共に革命時代を生き抜き、貧困に喘いできた人民を解放したのはオレたちだ！」と主張し、太子党の正当性を訴えて貧困層の支持を得ようとしているのである。より正確に表現すれば「中国を解放したのはオレたち……の親父や伯父や親戚たちだ！」となるのだが。

これが真相である。薄熙来の一連の行動に対し、いろいろな解釈や分析がなされているようだが鉦太鼓につき合って踊る必要はない。彼の共産党礼賛は、権力闘争に勝利するため貧困層に向けアピールする理屈以外の何物でもないのである。(了)

文中の見解は全て筆者の個人的意見である。

平成23年8月12日

筆者プロフィール

杉野光男

東洋証券株式会社 主席エコノミスト

一橋大学商学部卒、三菱信託銀行(現三菱UFJ信託銀行)入社、上海華東師範大学へ留学

同行北京駐在員、上海駐在員事務所長、理事中国担当部長を経て、2007年より現職

著書 日本の常識は中国の非常識(時事通信社)、中国ビジネス笑劇場(光文社)等

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号

日本証券業協会 加入

本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040

ご投資にあたっての注意事項

手数料等およびリスクについて

①株式の手数料等およびリスクについて

- 国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大1.2075%(税込み)(約定代金が260,869円以下の場合、3,150円(税込み))の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。

国内株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。

- 外国株式等の売買取引には、売買金額(現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額)に対して最大0.8400%(税込み)の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

外国株式は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

②債券の手数料等およびリスクについて

- 非上場債券を募集・売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。

債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスク及び為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

③投資信託の手数料等およびリスクについて

- 投資信託のお取引にあたっては、申込(一部の投資信託は換金)手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。

投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

④株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

- 株価指数先物取引には、約定代金に対し最大0.0840%(税込み)の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。
- 株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大4.20%(税込み)(約定代金が2,625円に満たない場合は、2,625円(税込み))の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

3/3